

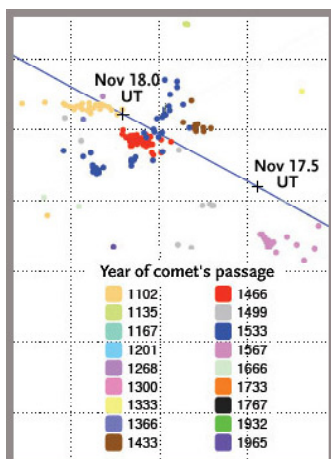


2009年しし座流星群観察 道東(更別)遠征観察会 曇られたしし座流星雨紀行

2001年のしし座流星雨大出現から8年。今後、流星雨の出現は望めないという状況だったが、彗星と流星の研究を専門とするフランスのジェレミー・ボバイヨンが、一晩で数百個の流星が見られるという予報を発表、その情報を頼りに我々は再び道東の更別遠征観測会を行った。報告：渡辺 和郎

しし座流星群は11月中旬ごろに活動する顕著な流星群である。これまで、母天体テンペル・タットル彗星(55P/Tempel-Tuttle)の公転周期である、およそ33年ごとに流星雨、あるいはもっと規模の大きい流星嵐が観察されてきた。近年では1998年から2002年にかけて、数回の大規模な流星嵐が観察され、日本でも2001年に1時間あたり1000個を超える流星嵐が観察された。

私たちも2001年11月、道東の更別で6000個に及ぶ流星をビデオに納める大出現を目撃した。しかし、こ



こ数年は流星の元となるチリの粒の濃密な部分も遠ざかり、ほとんど見られない程に活動は低調になっていた。ところが近年の理論に基づく研究結果によると、今年は約500年前に母天体から放出された古いちり粒の流れの中を地球が横切り、ここ数年の中では「やや多め」に観察できるかもしれないと予想が発表された。

ジェレミー・ボバイヨン(Jérémie Vaubaillon)はフランス出身の天文学者、太陽系小天体を専門に研究している。とくに10年前に確立されたばかりの流星群の数

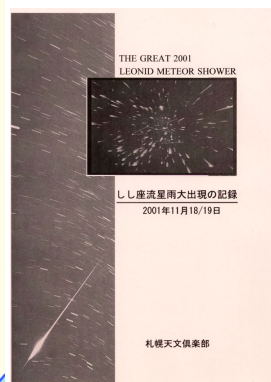
値予想に積極的に取り組み、パリ天文台に勤めるかわら欧米各地の専門家たちと共同研究を続けてきた。

2008年12月、ボバイヨンは「2009年のしし座流星群はピーク時のZHR(理想的条件下での1時間あたり出現数)が500個に達する」という予想をし、その後、200個へと下方修正されたが、依然として例年を大きく上回る数値の発表をした。ボバイヨンは2008年のしし座流星群についても精度の良い予報していたので、期待は一層高まったのである。

11日17(火曜)日 10時出発

さっぽろ地下鉄東西線「ひばりヶ丘」駅3番出口のそばにある、生協駐車場が集合場所。10時5分前に愛車で着くと、既に市川恵子、坂本美弥、村瀬ゆかりさんの3名が集まっていた。ほどなく奥田澄子さんが遅れてやってきた。「3番出口は階段のみで辛かった…」と息をきらしている。全員で私を入れて5名での出発だ。後部座席に3名、長老の奥田さんを助手席に座らせ出発しようとしていると、車の前に越坂香織さんがひょこっと現れた。「あれっ? どうしたの?」と思ったら、道東遠征の見送りに来てくれたらしい。差し入れに手作りのお菓子を持っていた。「栗のパウンドケーキ」に種子島産安納芋の「焼き芋」だ。今日は平日だから勤務の途中のようだったが、申し訳ないやら悪いやら。

約1名の見送りを受け、車は札幌南I.C.から高速に乗った。空は曇っているが、直ぐに携帯が鳴った。佐藤智秀さんだ。彼は奥さんと18時頃に追っかけ参加と



2001年のしし座流星群、更別遠征の報告書

札幌から道東十勝の更別村までの道のり。高速道路図。夕張から占冠までは一般国道を通行(迂回)する

いうことだった。明日は休暇を取れたが、今日は平常勤務ということだ。

車は石狩平野を恵庭に向け南下し、ほどなく東に向かう。周囲は樹々は葉を落とし、刈り入れの終わった水田や畑を貫くようにひた走る。ジャンクションから道東道へ入ると車の数がガクッと減った。片側一車線だが、後ろに車が迫るので、左の路肩によって道を何度か譲った。中年暴走族の異名をとる自分だが、余り速く走っては、宿泊のチェックイン前に着いてしまう恐れがあるので時間調整のつもりだった。車内では文化講座の座学の延長のような環境だったが、星の話は一度も出ない。どちらかというと、先ずは参加者それぞれの自己紹介を兼ねた雑談だ。中でも一番若い村瀬さんは新得の出身で、両親は大規模農場を営んでいるということだった。「乳搾り体験」や「新得名産の蕎麦打ち体験」を盛り込んだ星三昧旅行を企画したら面白いだろうなあ〜と盛り上がった。彼女、既に結婚しており、ご亭主が来年春から十勝の池田町に就職するというので、あと3ヶ月の札幌生活である。

夕張から高速を終え山間部に入ったが、行く手の山々の上部は真っ白い雪を被って、既にここでは冬が始まっていた。夕張から占冠までは一般国道 274 号線を車列に入って走る。別名「樹海ロード」と呼ばれる道央と道東を結ぶ幹線道路だ。紅葉山を過ぎて 2 つ山越え



道の駅「自然体感しむかつづ」前にて

をすると、左に折れて国道から離れ占冠へ向かう。ここから再び高速道路に乗るのだ。その前に、小休止ということで、占冠の道の駅へ 11 時 40 分到着。12 時ということで、ここの売店の蕎麦で昼食でもと思ったが、いかにも不味そうな食堂だったのでパスし、少々遅くなくても十勝で美味しい蕎麦を食べようということになった。

初走行 占冠ートマム間

占冠とトマム間の 26.2km は 10 月 24 日に開通したばかりの区間だ。道の駅の先から再び高速に乗った。高速路は新しく、トンネルも明るい。真っ直ぐに延びた道の先に、何本ものトンネルが連なって見えるのは圧巻だ。それほどこの地域は山岳地帯なのだ。トンネルを抜けると左手の山麓に“トマムリゾート”のホテル群が現れた。4 本のタワーが周囲の山並みに劣らぬ異様を見せている。「カッコいい!」、トマム全体が一枚の絵のように見渡せるではないか。高速道は盛り土や



占冠ートマム間は開通したばかり

ポジションの高い場所を貫いているので実に景色がいい。一般道からは見られないパノラマの景色だが、車を運転しながらも景色に酔いそうなくらいだった。占冠からトマムまでの一般道はこれまでトラック軍団が避ける道のりで、大型車の姿はなかった。それでも乗用車で時間はかかったのだ。それが、高速ではあっという間だったのには驚いた。やはり高速道効果は凄いと思った。

2 本の長大トンネルを抜けると眼前に広大な土地が広がった。十勝平野、北海道の屋根といわれる日高山脈を抜けたのである。直ぐに高速道の左下に見下ろすように集落が見えた。村瀬さんの故郷、新得町である。十勝清水の I.C.のゲートが取り払われ、高速道は真っ直ぐ帯広へと向かう。高速道の路肩でレーダーを向ける取り締まりのパトカーを注意しながら、大平原 S.A. を通過し、帯広ジャンクションからコースを南に高規格道路へと進路をとる。この道も土盛りの高所を走行するため見晴らしがいい。それだけでなく交通量の少ない平野に、なんでこんな立派な道路かと思うかもしれないが、ここは別名“昭一道路”、つまり故中川昭一議員の地元なのである。十勝の北東の端にも“宗男道路”という車の走っていない高速道路もある。

お食事処 花田



帯広市幸福町東5線173-4のお食事処“花田”

13 半、幸福 I.C.で下りて、十勝おびひろ空港方面へ向かう道道更別幕別線で“花田”という食堂に入った。昼がとうに過ぎて空腹が頂点に達しており、この先、

田舎道にシャレた店があるとも思えず、“蕎麦”ののぼりに引かれて寄ってしまった。車が数台停まっていたので、そう不味い店とも思えなかった。

女性4人はいずれも暖かい“鴨南”などの井蕎麦を注文し、私はいつもの冷たい“とろろ蕎麦”の大盛り。あっという間に食べ終わったが、雑談に花が咲いて店を出たのは14時50分を過ぎていた。



やっと昼食にありつき、満足げな女性4名

チェックインまで時間を潰すのに、奥田さんは“花畑牧場”に行っただけでいいというので、向かうことにする。広い十勝の台地はいくつもの防風林によって囲まれ、何処を見ても絵になる。この近くにはお菓子で有名な六花亭の「中札内美術館」も近い。坂本直行の描いた十勝の絵そのままの風景が車窓を飛ぶ。

東四線を直進すると、左手にコテージ群「ヒューレンドルフ・ドイツ休暇村」が現れた。森に囲まれた別荘群である。10年前に何度か星見をするため、宿泊した場所だ。しし座やふたご座流星群の観察会でよく来たが、周囲の樹木の生長が早く、とうとう星が見られなくなり視界が狭まってからは縁遠くなった。パプルの象徴のような不動産群だったが、これまた近所で潰れたテーマパーク「グリック王国」のごとく、ここも景気の洗礼を受けたようだった。一時期は別荘として個別に売りに出た経緯もあったようだ。松の枯れ葉が積もる小道を車でグルッと周回して本線に戻った。

休暇村からまた数km南下すると、15時に“花畑牧場”に辿り着いた。しかし、冬期営業になって人気も少なく土産売り場が一棟開いているだけだった。



田中義剛の経営で知られる“花畑牧場”

女性陣は、土産もそこそこに、牛の柵の方に集まってなかなか車には戻って来なかった。16時近くになって陽も傾いてきたが、曇っていることもあって周囲が暗くなるのが早い。「随分、牛で盛り上がってましたね?」と戻って来た彼女らに聞くと、何と酪農家の娘であった村瀬さんが講師になり、牛の何たるかを話してくれたそうだ。牛の角を切って出る血や舌がペロッと思った以上に長いことを実地で研修していたのだった。

枯れ葉舞う中札内美術村の小道を車で通過しながら、冬期閉鎖された美術館や写真館、物産館を説明する。その後、今夜の宿泊施設「更別カントリーパーク」へ向かうが、日高山脈に落ちる夕日が、わずかな雲の隙間に見えて、「綺麗!」と車内の女性陣が感動していた。

8年ぶり、更別カントリーパーク

途中、道の駅「ピポパ」横を通過。薄暗い森の中を走っていると、右手にコンクリートの野球場のような建物が見えた。これが「十勝インターナショナルスピードウェイ」。広大な十勝平野を一望する丘に総工費100億円をかけ平成5年に完成した。北海道の自然が持つ魅力を最大限に生かしたF1レースも可能なサーキット場で、1万人収容のメインスタンドだ。全国有数のモータースポーツのメッカとして、「十勝24時間レース」や「全日本ママチャリ12時間耐久レース」など、様々なイベントが開催してきたが、つい先日倒産した報道があった。今後どう再建されるのだろうか?



さらべつカントリーパークのセンターハウス

ほどなく「さらべつカントリーパーク」に到着。管理棟であるセンターハウスで料金を支払いコテージに入る。コテージは5棟あり、基本料金15,000円に人数×1,000円で利用できる。今回は冬期2割引で17,600円。事務所の案内壁には、8年前にしし座流星雨を観察した時に撮った我々の写真パネルが飾ってあった。佐藤智秀さんが寄贈したものだ。

30haもの広大な敷地を有し、キャンパーたちのより充実したアウトドアライフをしっかりとバックアップする施設になっている。見渡す限りの緑の芝生、トレーラーハウスにヨーロッパ風のコテージ、車の横に張れるテントサイト。センターハウスにはフロント、団らん室、売店があり、パーク内には野外ステージやパークゴルフ場なども完備されている。

一番奥で、星を見るのに暗い“ひよどり”を借りた。荷物を置いた時には辺りはすっかり真っ暗になっていた。さて夕食である。炊事はいっさいせず、買い出しに行くことにした。ただし、この周囲には道の駅しか店舗がない。以前食べた“豚丼”の「かしわ」に開店中か確認の電話をしたが、2度かけても出なかった。

客が来ないので閉めちゃったのかも知れない。仕方ないので、明日の朝食の調達と夕食を兼ねて道の駅「ピポパ」に向かった。



ピポパは散策路や休憩広場などの駐車公園と、観光物産館からなる施設で、更別村を始め、南十勝に関するさまざまな情報発信の拠点になっている。お土産をざっと見て、地元のパン屋さんが出店しているパンや飲み物を各自好きな分だけ調達した。併設している食堂が 16 時閉店だったが、5 人が食べると言ったら受けるというので、ここで夕食をとることにした。温めるだけのファースト・フードのような食堂だったが、時間を考えた。2 人が 800 円の「とんかつ定食」、3 人が「豚丼」を注文した。お世辞にも美味しいとは言えないが、帯広駅前の「ばんちょう」という、ガイドブックに紹介されてから長蛇の列が出来るような人気豚丼屋の話になって、合い席を強要され、味噌汁やおしんこも有料の店もどうか？という話をしながら、皆な残さず食べた。

コテージに戻ったら 17 時を過ぎていた。



道の駅のレストラン(食堂)「ポテト」の豚丼

待てども待てども天気良くなりず

暗くなって夜空を幾度か仰いだが、星は一つも見えなかった。コテージの 2 階の 2 段ベット 2 台で 4 名の女性たち、1 階のツインのベット部屋は佐藤夫妻、居間のソファベッドに私が寝ることになった。居間ではすることもないのでミーティングに花が咲く。

坂本美弥さんは団塊の世代の女性で、今は退職したが、有名なアルピニストだ。彼女の話も面白い。若い時に友人と二人で冬の日高山脈を縦走した。男でも難しいコースだが、新聞で話題になったそう。ただ、予定日数をオーバーしてしまっただけで捜索隊が出たらしい。山のことは彼女は何でも知っている。エベレストにアタックこそしていないが、登山家の田部井さんは良く知っているお仲間といていた。今年の夏 7 月、大雪のトムラウシで 9 名の死者が出たことには、動かずビ

パークするのが鉄則と言っていた。

市川恵子さんは、海外旅行は数知れず。奥田澄子さんは 1 週間後にヒマラヤへ向い、エベレストを見る軽いトレッキング・ツアーに参加する。80 歳を前にして元気だ。

20 代の村瀬さんに始まり、70 代の奥田さんと年齢差を超えた女性陣の話には、女性特有の会話がある。その中に一人、男性が加わって時間が過ぎていった。

深夜に佐藤夫妻が到着

佐藤夫妻がなかなか到着しない。18 時の出発は無理だったのだろうと、時計を逆算しながら気にしていると、23 時半を回ってやっと車の音がした。

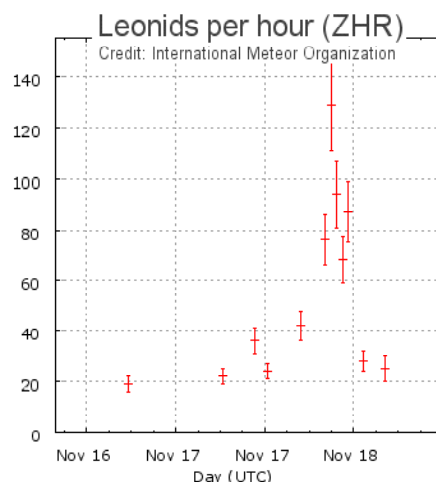
予定通り札幌を出たというので、「随分と時間を要したな」と言うと、十勝清水で高速を下りて一般道を走ってきたらしい。「何でそこ(中札内)まで高速が出来ているのに…」と言ったら、高速(高規格道路)の存在を知らなかった。確かに 8 年前のしし座流星群の時は、アイスパーンや雪道を避けて、日高の天馬街道経由で来たのを思い出した。現在は占冠と十勝清水間の高速道路が繋がってじつに楽になった。標高 1,000m の日勝峠を避けられるようになったのは嬉しい。それにしても、釣りで道東の庶路までしょっちゅう行く人間にしては、十勝のことを余りに知らないのには驚いた。

女性陣の半数は既に夜明けを控えて眠りに就いていたが、村瀬・坂本 2 名と佐藤夫妻、私とが 03 時まで話し込んだ。内容は渡辺の自慢話しが中心だが、眠い目をこすりながら良くつき合ってくれた。

11日18(水曜)日 05時

もう薄明が始まるという 5 時になって、わずかに星が見え始めた。すっかり諦めていたので奇跡かと思った。2 階の女性たちを起こして外に出た。火星やしし座の大がま、北斗七星が高い。しかし、快晴とは言えず薄い雲越しに見ている感じだ。快晴ではなく、波状雲が通過している感じで、時間と共に夜空の見え味が変化しながら悪くなる。

首が痛くなるほど眺めて、2 個ほど流れ星の光を見た。しかし、雲越しとはいえ多くの流星の出現のようすは感じられない。5 時半には諦めて部屋に戻り寝ることにした。寝不足では明日の札幌帰りが辛くなる。



今年のしし座流星群の出現グラフ

佐藤さんは折りたたみ椅子にどっかり腰を下ろして、夜明けまで見守っていることだった。居間のソファベッドで眠りについて目を覚ますと、



11時のチェックアウト。コテージ「ひよどり」前で全員で記念撮影。前列左より奥田澄子、村瀬ゆかり、市川恵子、後列左より佐藤智秀、佐藤麻子、坂本美弥、渡辺和郎

天窓の向こうの空が青かった。既に夜は明けたのだろうが、雲が無くなって晴れていたのだ。「くそっ！今頃になって…」もう3時間晴れるのがズレてくれたら良かったのに…と、布団の中で思った。



こんな大流星が見られたかも知れなかったのに…

8時を過ぎると、誰とはなく起きてきて居間は賑やかになった。佐藤さんいわく「波状雲が次々流れてきて、夜明けまでほとんど星は見えなかった」らしい。

10時には、坂本さんがみんなにコーヒーを入れてくれ、佐藤麻子さんが卵焼きを作ってくれた。各自が思い思いに遅い朝食をとった。しし座流星群を見ることが出来なかったが、1泊2日の長い時間は、各自にとって別の貴重な時間になったのではないかな。講座の90分ではわからない、受講生同士の友情が芽生えた瞬間でもあった。

初めての参加者には、明るくなった外に出て周囲の環境が分かったようだ。遠く眺められる日高山脈は白い雪に覆われ、低い太陽光に照らされ、山影がよりハッキリとなって荒々しい姿を見せていた。

一路、札幌へ戻る

佐藤夫妻は、せっかく道東に来たのだから温泉にで

も入って帰札するという。

村瀬さんが15時から仕事に出なければならないというので、来た時の顔ぶれで急ぎ札幌に向かうことになる。仕分けしたゴミと鍵の返却を佐藤さんに頼み、我々は帰路についた。道の駅ピポパ前を直進し、先ずは車にガソリンを入れなければ帰れない。市街地のある更別のホクレンのスタンドで満タンにするが、1リットルが126円は高い。田舎は運搬コストが高いのだろう。

国道236号を走ると、昨日寄った「中札内美術村」を右に見ながら、幸福I.C.から高速(高規格)道路に乗る。来た時と違って今日は青空だ。景色が前日とはまったく違って見える。左手に日高山脈を眺めながら北上、ジャンクションから西へ進路をとると雪雲が山脈にかかっているのが手にとるように分かった。近づくにつれ、清々しい気持ちとは裏腹に、流星群を見られなかった嫌な想い出と重なるかのように、大平原P.A.付近から、たちどころに吹雪に襲われ始めた。まだ十勝平野だというのに先が思いやられる。「こりゃ、トマム辺りは猛吹雪だろうな…」。路面にうっすらと雪が積もり始め、トンネルを超えると吹雪状態になった。スピードをグッと落として、ハンドルを握る手に力が入る。少しでもスリップしたら大事故につながる。

日高の山中、トマム路は昨日の景色と全く違って真冬の状態になっていた。山々は真っ白だ。前を行く小型トラックの赤いテールランプが頼りだ。100m後を定速で追うように走る。気温はマイナス1度、一番滑る温度だった。

占冠の道の駅で小用タイムをとって、一路札幌を目指す。国道274号を抜け夕張I.C.から再び高速に乗る頃には、天気が回復して晴れ間も見られるようになった。馬追丘陵を抜けると、石狩平野が一望できる。遠い地平線に樽前山から恵庭岳、右手に雪雲を抱く藻岩山に手稲山までがクッキリ見えた。助手席の奥田さんがこの景色を見て感激していた。

札幌南I.C.の大谷地から南郷通りを都心に向け走り、南郷13丁目駅の前で3名を下ろした。流星を見られなかった残念さと、楽しかったドライブが入り混ざった複雑な心境だろう。でも、笑顔を絶やさず駅の入り口に仲良く消えて行った。隣に村瀬さんを乗せ、月寒グリーンドーム横を通過して、彼女のマンション前で下ろした時は15時丁度だった。「服を着替えたら、地下鉄で職場に向かいます。間に合いそうです。ありがとうございました！」と言っていた。

今回のしし座流星群道東更別遠征は終わった。自宅に着いたのは15時半だった。おしまい